

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	170202915		
法人名	有限会社 ウエルコ		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目5-22 (電話) 011-774-5517		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年6月11日	評価確定日	平成19年7月25日

【情報提供票より】(平成19年5月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての 2~3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円		
その他の経費(月額)	・水道光熱費20,000円・暖房費7,500円(11月~3月) ・介護用ベッド3,000円		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6名		要介護2 6名
要介護3	4名		要介護4 2名
要介護5	要支援2		
年齢	平均 80.1 歳	最低 60 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	倉田内科医院、宮の沢ファミリークリニック、旭ヶ丘クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはJR駅の近くにある商店街の一角にある。近隣には6カ所のグループホームがあり、地域的にはグループホームの存在は認知されている。1階がコンビニエンスストアで、2階と3階がホームとなっている。建物の中に入ると、木材を多く取り入れており落ち着いた雰囲気グループホームである。食堂兼居間が中央にあり、居室・トイレ・浴室は十分なスペースが確保されており余裕のある介護ができる配置になっている。管理者も含め平均年齢が若い職員で運営していて、利用者には親と孫といったほのぼのとした感じに好感が持たれている。管理者をはじめ、職員が高齢者介護の理念を理解し明るくやさしいケアに努めている。利用者も落ち着いた穏やかな生活を送っているのが伺えた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が初めてである。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 会議において、自己評価の意義・目的を全職員に説明・周知している。課題を明確にしており、今後介護計画の改善作成にいかに取り組みでいくか期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議においては、自己評価票の公開及び説明、意見や要望・助言を募っていて、改善点の明確化を行っている。会議の場だけではなく、会議を活かすために要望や助言をサービス向上を図るためにはどうすればよいのかを管理者と介護従事者とで協議しながら取り組んでいる。今後さらに、外部の意見を取り入れる取り組みに期待するとともに、改善計画作成への取り組みも期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議等に家族も出席し、状況等の説明を受け感想・意見を述べる場を設けている。また、苦情受け付け箱も設置されている。現在取り組んでいる、来訪が困難な家族等への対応の成果を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 今年から町内会に入会し、資源回収に参加したりしており、地域の一員としてさらに交流が促進されると考えられ、今後の地域との連携に期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念については、地域社会とのつながりと馴染みある暮らしの継続を掲げ、具体的なサービス・ケアについてミーティングの場で話し合いをしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や各ユニットに掲示したり、名刺の裏に印刷し職員に配布するなどして、常に理念を意識してケアを行うようにしている。また、会議において理念に必ず触れ、確認しあうようにし、実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや催し、他グループホームのイベント等への参加を行っている。今年度より町内会に加入し、地域に役に立つ活動に参加している。また、ボランティアの受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は受けていないが、会議において全職員に自己評価及び外部評価の意義・目的を説明し周知している。自己評価を行い、改善すべきことは職員間で話し合いをし、取り組むようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて評価の公表を行い、評価と会議を結びつける取組を行っている。さらに、地域の人達からの意見や要望も取り入れられるよう、積極的な意見交換を行っている。会議の場だけではなく、その後代表・管理者・計画作成担当で再度検討しサービス向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議はすでに4回開催され軌道に乗りつつあり、市町村担当者との関係づくりを積極的に行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、入居者の介護・医療・生活の様子を伝え、又健康状態に変化があればその都度家族等への報告も行っている。来訪が困難な家族には、定期的に発行されるホーム便りと共に、個別の便りも送っている。来訪時には、金銭管理簿の確認も行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談機関を記載したり、ホーム入口にポスターや苦情受付箱を設置して、繰り返し情報提供を行っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が、馴染みの職員によるケアを受けられるよう心がけ、異動は必要最小限にとどめている。離職希望者には、利用者へのダメージを防ぐために新しい職員への引き継ぎ期間を設ける努力をしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一律ではなく、経験年数や資格に応じた外部研修会に積極的に参加出来るよう配慮している。研修報告を会議等で行っており、研修報告書を全職員が閲覧出来るようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の法人のホームと交流する機会をもち、情報交換をしたりして質の向上に取り組んでいる。また、相互訪問を行うなどして連携を強化している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前から施設の見学等を行うなど、利用に対する不安がないように努めている。また、利用開始後は、早くホームに馴染めるよう利用者同志の中に職員が入るなど工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>行事・レクレーション等への参加を促すなどして、楽しいことや嬉しいことを職員と感ぜられるように努めている。また、利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、介護される一方の立場にはおかないよう取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、時間や場面に応じて本人に直接聞いたり、家族から情報を得たりして本人の思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>画一的な計画ではなく、本人が充実した生活を送れる計画を作成するために、ユニット会議で話し合いアイデアや意見を出しあったり、面会時に家族から要望を募ったりしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>決められた期間の見直しはもちろん、状態変化が大きい場合はその都度見直しを行っているが、モニタリング票は作成しているが、介護計画の見直しの後の作成が行われていない。</p>	○	<p>職員が情報を確認し、家族や利用者の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に介護計画の見直しを行い、作成することが望ましい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院介助を行ったり、外食やなじみの場所への外出支援など、利用者や家族の状況・要望に応じて多様な支援を行なえるよう前向きに模索しながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに入居しても、可能な限り利用者や家族の意向に沿い、馴染みの主治医による継続的な医療が受けられるよう支援を行っている。また、常勤の看護職員に相談も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や急変時の対応についての話し合いは、家族や利用者で行っている。重度化した場合の対応については、全員で方針を共有するには至っておらず、現在取り組み中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議等で職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を管理者が点検し、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせることなく、個々の生活ペースを大切にしている。天気や健康状態に配慮しながら、一人ひとりのその日の要望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事を楽しむことができるよう、広告やテレビなど見て、要望があればメニューに取り入れたり、職員と利用者が同じテーブルを囲むなど楽しく食事が出る雰囲気づくりをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望する時間帯、回数等による入浴を出来るだけ支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活が、楽しみや張り合いのあるものになるよう、食事の場面や外出の機会・趣味を活かすなど個々に合わせた支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員側の都合を優先せず、その日の利用者の体調を考慮しながら、外出する機会をできるだけ多くしてホームに閉じこもらない生活を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中は施錠していないが、一部徘徊への対応から施錠している。家族へ説明を行い了解を得ている。	○	徘徊の要因となる、入居者の心の不安や動機を探り、落ち着きを取り戻せる環境の整備に取り組んでもらいたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として、開設時講習や定期的点検時に職員は避難訓練を実践している。近々消防署の協力を得て、1階の店舗と合同避難訓練を行う予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録し、厳密なカロリー計算はしていないが、栄養士の献立表を目安に、個々に合わせた食事作りをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調のあたたかい物品を配置したり、植物や絵画作品・装飾など工夫して利用者が居心地よく過ごせる雰囲気作りをしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に家族に説明して、居室へはなるべく家にあつた馴染みのある物や趣味の物を持ち込んでもらっている。また、その他必要な物は利用者と一緒に出かけ、利用者の意向に合った物を購入するようにしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。